

韓国政府の対北朝鮮政策

2003年2月25日に盧武鉉大統領が就任した。その後、韓国政府の対北朝鮮政策は、「太陽政策」を踏襲していくと見られてはいたが、公式には発表されていなかった。

今回、統一部から発表された『「参加政府」の平和繁栄政策』は、対北朝鮮政策を北朝鮮だけにとどまらず、朝鮮半島の平和が北東アジアの繁栄を生むという考え方を基礎にした、外交、統一政策に及ぶ構想である。

この構想は、周辺国との協力の中で、直面している北朝鮮の核問題を平和的に解決し、それに基づいて南北の実質的な協力の推進と軍事的信頼構築を実現する。米朝・日朝関係正常化を支援することで、朝鮮半島に平和を定着させ、南北の共同繁栄を実現することにより、平和統一の実質的な基盤を作り、北東アジア経済中心国家建設の土台を作ろうとする、盧武鉉大統領の統一・外交・安保政策全般を含む基本構想である。

以下は、ERINA 翻訳による統一部『「参加政府」の平和繁栄政策』である。

「参加政府」の平和繁栄政策 2003.3 統一部

目次

1. 平和繁栄政策とは？
2. 平和繁栄政策の背景は？
3. 平和繁栄政策の目標および推進原則は？
4. 平和繁栄政策の推進戦略は？
5. 平和繁栄政策の特徴は？
6. 平和繁栄政策の意義は？
7. 平和繁栄政策の体系は？

平和繁栄政策に関連した国政課題

朝鮮半島平和体制構築

北東アジア経済の中心国家建設

1 . 平和繁栄政策とは？

朝鮮半島に平和を増進させ南北の共同繁栄を追求することで、平和統一の基盤を作り、

北東アジア経済の中心国家としての発展の土台を築こうとする盧武鉉大統領の戦略的構想です。

周辺国家と協力して当面の北朝鮮の核問題を平和的に解決し、それに基づいて南北の実質協力増進と軍事的信頼構築を実現し、米朝・日朝関係正常化を支援することで、朝鮮半島の平和体系を構築し、南北共同繁栄を追求することで、平和統一の実質的な基盤を作り、北東アジア経済中心国家建設の土台を作ろうとすることです。

盧武鉉大統領の統一・外交・安保政策全般を含む基本構想（朝鮮半島平和発展構想）です。

本当の北東アジア時代を開くには、まず朝鮮半島に平和が制度的に定着しなければなりません。朝鮮半島が地球上の最後の冷戦地帯として残っているのは 20 世紀の不幸な遺産です。そんな朝鮮半島が 21 世紀には世界に向けて平和を発信する平和地帯に変わらなければなりません。ユーラシア（ヨーロッパ、アジア）大陸と太平洋を結ぶ平和の関門として生まれ変わらなければなりません。釜山（プサン）でパリ行き鉄道切符を買って平壤、新義州、中国、モンゴル、ロシアを渡ってヨーロッパの中央に到着する日を早めなければなりません。
盧武鉉大統領就任演説（2003.2.25）より

2 . 平和繁栄政策が生まれた背景は？

最近の北朝鮮核問題をきっかけに葛藤や紛争の連続であった朝鮮半島を、平和と繁栄の地域に生まれ変わらせるためのより具体的な戦略的構想が必要です。

- 朝鮮半島の平和発展の基本経路及び推進原則、韓国が東北アジア時代の主導者として前に出られる現実的な戦略提示が必要

内外に支持基盤の幅広い確保が可能な対北政策構想が必要です。

- 安保的側面（平和）と経済的側面（繁栄）の均衡ある強調

核・ミサイル問題、経済危機問題から見られるように、現在の北朝鮮問題は単純に韓国だけの関心事項ではなく、国際的に問題となっています。

- このような現実の中で、韓国の対北政策も南北関係の水準を越えて地域全般の平和と繁栄を追求する、「北東アジアの中の朝鮮半島」という次元で運用しなければならない必要性が浮かぶ

既存の南北和解協力政策（包容政策、太陽政策）を内容的・形式的な部分から補完・発展させた対案を提示しました。

- 南北関係改善と冷戦構造解体の土台を作った既存政策の成果に基づいて、南北関係の深化・発展を含んだもう一段進展した政策の必要性

3. 平和繁栄政策の目標及び推進原則は？

目標

- 朝鮮半島の平和の増進
- 共同繁栄の追求
- 南北朝鮮の共同繁栄を実現
- 北東アジアの共同繁栄を追求

朝鮮半島の平和の増進

過去、冷戦及び分断時代の南と北はお互いに相手を孤立・閉鎖させることで、発展を阻む敵対的・破壊的關係を維持してきました。その結果、南北は消耗的な葛藤と対立の中で不安定な平和を維持してきました。

しかし、脱冷戦の世界史的な流れや6、15南北頂上会談等によって、朝鮮半島には「平和定着」という新しい挑戦のチャンスが訪れました。

平和繁栄政策は当面の課題になっている北朝鮮の核問題を平和的に解決し、それを土台に南北の実質協力を増進させ、軍事的信頼構築を実現することで朝鮮半島に平和を増進させます。

共同繁栄の追求

我々は、もう、朝鮮半島という枠にとどまらずに視野を広げ、より広い世界、東北アジア次元で、繁栄を志向していくことが重要です。

歴史的・地政学的にみて朝鮮半島は、政治・経済など全ての側面において大陸と海洋を結ぶ架け橋としての役割を遂行できるし、アジアと世界の中枢国家（Hub State）として跳躍できる無限の可能性を秘めています。

従って、平和政策は南と北を含む朝鮮半島繁栄を実現させていくだけではなく東北アジア地域近隣国家の共同繁栄も一緒に追求していきます。

推進原則

- 対話を通じた問題解決
- 相互信頼優先と互惠主義
- 南北当事者原則に基づいた国際協力
- 国民と共にする政策

対話を通じた問題解決

朝鮮半島は不安定な停戦体制と軍事的な対峙状況によって緊張と葛藤が続いており、世界最大の軍事力の密集状況と関連して、偶発的な武力衝突可能性が常に存在しています。

このような現実を考えて、全ての葛藤や懸案事項は必ず対話を通じて平和的に解決するというのを原則として設定しました。

また、朝鮮民族の滅亡を招くどんな形態の戦争も反対するし、武力使用は最終的な防衛手段としてのみ認めます。

相互信頼優先と互惠主義

北東アジア地域（南北朝鮮及び米・中・日・ロ）はお互いに異なった政治体制と経済状況、文化と価値観を持った国家で構成されています。

従って、お互いを認める土台の上で十分な理解をもとに相互信頼優先の原則に立脚して地域の平和と協力を推進していきます。

つまり、北朝鮮及び周辺国家との関係増進と健全な相互協力のためお互いに利益になる互惠主義を追求し、一方主義を排除し、同等な関係を追求していきます。

南北当事者原則に基づいた国際協力

朝鮮半島平和体制構築及び南北経済共同体形成等は朝鮮半島の当事者である南北が協議して、推進していきます。

また、朝鮮半島の平和と繁栄のために当事者原則を基礎にして国際社会と協力し、北東アジア地域の平和と繁栄にも寄与できるようにします。

国民と共にする政策

政策推進の対内外的透明性を高める
平和繁栄政策に対する国民的な合意を土台に法と制度に従って透明性を確保しつつ推進していきます。

政策決定及び執行過程、対北接触過程の透明性を強化し政策に対する信頼を高めていきます。

超党派的協力推進
平和繁栄政策が政争の対象になったり、国論分裂（韓国内での葛藤）の原因になら

ないように政治圏との協力を積極的に推進していきます。

つまり、与・野党及び国会との協力を制度化し超党派的な合意形成を成し遂げていきます。

国民参加拡大

政策樹立および執行過程において民間専門家及び非政府機構(NGO)の参加を拡大して国民的な合意を形成していきます。

それと共に南北関係状況に対して国民が正しく認識できるよう、均衡的な対国民教育及び広報活動を展開していきます。

私は朝鮮半島平和増進と共同繁栄を目標とした`朝鮮半島繁栄政策`をいくつかの原則を持って推進していきます。

- 一、全ての現案は対話を通じて解いていきます。
 - 二、相互信頼を優先し互惠主義を実現していきます。
 - 三、南北当事者原則に基づき円滑な国際協力を追求していきます。
 - 四、対内外的透明性を高め国民参与を拡大し超党派的協力を得ます。国民と共にする「平和繁栄政策」になるようにします。
- 盧武鉉大統領就任演説より(2003.2.25)

4 . 平和繁栄政策の推進戦略は？

北朝鮮の核問題の解決

北朝鮮核問題は7千万民族の生命と安全、そして朝鮮半島と北東アジアの安全と平和を脅かすもので我々は北朝鮮のどんな核開発も容認しません。

北朝鮮核問題は国際社会と国民的合意に立脚して対話を通じて平和的に解決されなければならないし、そのために我々は積極的役割を果たします。

北朝鮮核問題解決3大原則

- 北朝鮮の核不使用
- 対話を通じた平和的解決
- 大韓民国の積極的役割

大量殺傷武器解決政策基調

- 北朝鮮が核、ミサイル問題を平和的に解決すれば、問題解決段階に合わせて大規模な対北経済協力措置を断行
- 朝鮮半島で軍事的緊張を高めるいかなる行為にも反対しそれに加担しないという立場を堅持

- 北朝鮮の大量殺傷武器問題による安保危機が経済に及ぼす否定的な影響や南北経済協力が平和増進に与える影響を総合的に考慮する包括安保を志向

朝鮮半島に平和体制構築

朝鮮半島平和体制構築とは過去 50 年間朝鮮半島の秩序を規定してきた不安定な停戦状態が平和状態に転換され、安保南北及び対外関係などで、それを保証する制度的な発展が成し遂げられた状態を意味します。

このような平和体制が構築されると、朝鮮半島共同繁栄が可能になり、それに加え北東アジア経済中心国家の土台が作られると思います。

推進方向

- 南北当事者解決原則と国際社会の協力確保
- 南北間の包括的な協力と実用主義的外交との並行推進
- 米朝、日朝関係正常化支援等新しい国際環境造成
- 平和体制に対する実質的保証と制度的保証の並行
- 確固たる平和保証のための国防体制確立
- 韓米関係の未来志向的発展追求

段階別推進戦略

1 段階：北の核問題の解決と平和増進の加速化

- 北朝鮮の核問題の平和的解決のための転機作り（現在の核心課題）
- 南北頂上会談などを通じた平和定着の土台作り
- 外交力量強化を土台に北東アジア平和協力雰囲気作り
- 北朝鮮核、ミサイル問題の解決合意

2 段階：南北協力の推進と平和体制の土台作り

- 北朝鮮核、ミサイル解決合意事項の具体的移行
- 南北実質協力の深化及び軍事的信頼構築措置の推進
- 北東アジア平和協力体構想の提案及び推進

3 段階：南北平和協定締結と平和体制の構築

- 南北平和協定締結及び国際的保証確保
- 平和体制転換に伴う様々な措置事項推進
- 南北経済共同体の本格的推進及び運用的軍備統制の段階的推進
- 北東アジア協力体構築実現

* 朝鮮半島平和体制構築のための課題は 10～12 頁参照。

北東アジア経済中心国家の建設

北東アジア経済中心国家の建設とは北東アジアの地政学的中心であるわが国を朝鮮半島平和体制構築に基づいて北東アジアの物流、観光、貿易、産業の中心及び海洋を大陸を結ぶ経済の関門として発展させていく 21 世紀我々の核心国家発展戦略です。

推進方向

- 平和体制構築努力と共に南北経済交流協力の深化を通じた朝鮮半島経済協力体形成推進
 - 北朝鮮の核問題が解決した時に大規模な対北支援及び経済協力事業推進と共に国際的支援・協力体制構築推進
 - 経済特区等拠点地域に対する積極的進出、米朝・日朝関係に応ずる経済的シナジー効果創出
- 北東アジア平和協力体推進
 - 米・日・中・ロを対象に朝鮮半島及び北東アジアの平和と繁栄を協議するための包括的多者協力体構成推進
- 北東アジア経済協力体主導的模索
 - 韓・中・日自由貿易協定（FTA）推進と並行して南北朝鮮及び4ヶ国が参加する北東アジア経済協力体構成推進
 - 産業・エネルギー、金融協力等北東アジアでの外交・通商分野協力環境作り
北東アジア経済中心国家建設のための課題は 12 頁参照。

5 . 平和繁栄政策の特徴は？

統一・外交・国防政策全般を包括する概念

政策の究極的な目標として平和と繁栄を提示することで統一・外交・国防等様々な政策の有機的な強調と調和を図模します。

既存の統一・対北政策の範囲を超え、より包括的で、具体的な国家発展戦略を提示しています。

安保側面（平和）と経済側面（繁栄）の均衡的強調

今まで進展された南北間経済協力に基づいて、安保面での進展まで成し遂げようとする均衡戦略です。

経済協力の成果が軍事分野の緊張緩和と信頼構築につながるよう推進していきます。

朝鮮半島を超えた、北東アジアの平和と共同繁栄追求

朝鮮半島から北東アジアに視野を広げることで「北東アジアのなかの朝鮮半島」の位相と発展可能性に対する明確な認識を高めようとなりました。

南北関係改善及び朝鮮半島平和の必然性を北東アジアを中心とした国際社会の平和と繁栄の観点に拡大しました。

国民参加と合意形成など内的基盤作りの強調

法と制度に基づき透明に政策を推進し積極的な国民参与と討論を通じた合意形成に力を入れます。

対北政策の推進過程において越党的協力を通じてより広範囲な国民的支持を確保することに重点をおいていきます。

6．平和繁栄政策の意義は？

停戦体制終息及び平和体制構築に対する意志表明

停戦 50 周年を迎えて停戦体制を平和体制に転換させることで完全なる終戦の意志と朝鮮半島平和体制構築本格化を表明しました。

当面の北朝鮮核問題解決に主力し現在の不安定な停戦状態を終息させ朝鮮半島の安上の脅威と戦争発生可能性を解消するために確固たる平和体制を構築することを明らかにしました。

また、南北間軍事的信頼構築を通じた平和増進を追求することを提示しました。

南北協力の目標提示

南北鉄道・道路連結事業、開城工業団地事業など既存の南北協力事業の具体的な結実を図り、

北朝鮮エネルギー・インフラ改善事業、経済特区事業など南北経済協力の拡大を通じた南北共同繁栄を追求し、

究極的に南北経済共同体形成を成し遂げて行くことを明確な目標として提示しました。

平和と繁栄の北東アジア時代主導表明

21 世紀の朝鮮半島は強大国の勢力争いの場ではなく、北東アジア共同繁栄の空間として生まれ変わることで平和な朝鮮半島が大陸と海洋を結ぶ架橋の役割を遂行して行くことを表明しました。

数百年間北東アジア地域の主要戦場もしくは葛藤の場であった朝鮮半島を地域平和

の軸として生まれ変わらせるという意志を表明したのです。

さらに朝鮮半島平和定着と南北経済共同体形成のための努力を土台に北東アジア繁栄と平和の過程において中心的な役割を遂行する意志を表明しました。

既存対北政策の補完発展

今まで和解協力を通じて南北関係改善と冷静構造解体の土台を作った対北和解協力政策（包容政策、太陽政策）を補完発展させていくという意味を含んでいます。

つまり、対北和解協力政策推進基調を継承するだけでなく平和増進に主力してより広範囲の国民的合意を得るなど推進方式と順序上の問題点を改善していくということです。

7．平和繁栄政策の体系は？

概念

朝鮮半島において平和を増進し南北共同繁栄を追求することで、平和統一の基盤造成と北東アジア経済中心国家としての発展の土台を作ろうとする盧武鉉大統領の戦略的構想

推進原則

- ・ 対話を通じた問題解決
- ・ 相互信頼優先と互惠主義
- ・ 南北当事者原則に基礎した国際協力
- ・ 国民と共にする政策

達成目標

- ・ 平和の増進
- ・ 共同繁栄

推進戦略

- ・ 北朝鮮核問題解決（短期）
- ・ 朝鮮半島平和体制構築（中期）
- ・ 北東アジア経済中心国家建設（中長期）

大量殺傷武器解決（WMD 政策）

政策基調

- ・ 北朝鮮が核、ミサイル問題を平和的に解決したときに、解決段階に合わせて大規

模な対北経済協力を断行

- ・ 朝鮮半島での軍事的緊張を高める一切の行為に反対
- ・ 軍事だけではなく経済も考慮した包括安保志向

北朝鮮核問題解決原則

- ・ 北朝鮮の核不使用
- ・ 対話を通じた平和的な解決
- ・ 大韓民国の積極的役割

平和繁栄政策に関連した国政課題

ア．朝鮮半島平和体制の構築

南北関係改善を通じた平和の制度化

- 南北対話の定例化
南北頂上会談など各種南北会談の定例化・制度化推進
相互信頼優先の原則に基づいて南北間で合意した事項は必ず移行、実践される慣例を定着し南北間信頼増進
- 南北交流協力深化・発展
南北経済協力事業の拡大・発展を通じて経済共同体土台準備
社会文化交流協力拡大を通じて民族同質性回復促進
- 平和体制構築に対する国民的合意形成
政府の対北政策及び朝鮮半島平和体制構築に対する国民の正しい認識形成及び参加拡大
主要事案国会事前協議など政治圏との超党派的協力推進
- 停戦体制の平和体制への転換
他分野の南北関係改善と並行して、軍事的緊張緩和及び信頼構築措置を段階的に推進
南北協力深化、軍事的緊張緩和及び信頼構築によって朝鮮半島の平和が実質的に保証された後、制度的装置を準備

朝鮮半島平和定着のための国際環境作り

- 北朝鮮核問題平和的解決推進
北朝鮮の核、ミサイル放棄等大量殺傷武器（WMD）問題の包括的で完全な解決推進（北核解決3原則の堅持）
我々の積極的役割と共に、韓、米、日との協力、中・ロ・EUの協調確保など国際社会との協力強化

- 朝鮮半島平和増進のための環境造成
南北関係増進と緊張緩和を通じて実質的平和を具現し、それを制度化できる国際環境作り
 - ・ 韓米関係再成立及び米朝、日朝関係正常化支援
 南北が当事者として平和協定を締結し、関連する国々がそれを補完する制度的装置を準備、停戦協定を代替
 - ・ 平和協定締結のための南北及び関連国間での会談の推進
 - ・ 北東アジア平和協力体創設推進

- 朝鮮半島平和増進のための環境造成
北東アジア平和・安保問題の包括的協議のため南北朝鮮、米・日・中・ロが参与する多者協議体構成推進
域内政治・安保環境を改善し朝鮮半島平和定着及び北東アジア経済中心国家建設に寄与

確固たる平和保証のための国防体制確立

- 自主的防衛力量の早期拡充
韓国的条件に合う「21世紀型先端情報・技術を持った軍」の育成推進
軍構造改善
 - ・ 未来戦遂行に適した技術集約型軍構造に発展
 - ・ 統合戦力発揮のため3軍の均衡発展
 - 戦力の増強
 - ・ 北朝鮮・不特定の脅威及び非軍事的脅威に対応した戦力の優先的な補強
 - ・ 情報・精密打撃分野における重要な戦力を重点確保
 - ・ 研究開発投資拡大を通じて武器体系独自開発能力拡充

- 韓・米同盟関係の未来志向的発展
未来の韓・米同盟及び駐韓米軍の役割に対して共同協議
朝鮮半島安保状況変化及び平和体制構築と連携、発展的調整
韓米間十分な協議を通じて確固たる共感の土台形成下で推進

- 南北軍事的信頼構築推進
南北軍事関係進展のための条件作り
 - ・ 国防長官会談など軍事当局者会談定例化
 - ・ 南北交流協力事業の軍事的支援保証
 漸進的・段階的に軍事的信頼構築推進
 - ・ 移行が容易な措置から優先合意・推進
 - ・ 南北関係進展程度に合わせて軍事交流漸次拡大

イ．北東アジア経済中心国家建設

- 国土の均衡的発展と産業発展戦略並行
 - 仁川地域は物流 IT など先端研究開発集積地、観光団地として造成
 - 釜山地域は物流と部品素材集積として造成
 - 光陽地域は物流と新素材集積として造成
- 経済自由区域の造成及び金融国際化
 - 経済自由区域を北東アジアビジネス拠点地域として開発
 - 金融・外国為替市場を 21 世紀北東アジア国際金融の中枢として育成
- 北東アジア物流中心基地構築
 - 仁川空港、釜山港、広陽港を北東アジア中心空港と港として開発
 - 仁川港を仁川空港と共に首都圏核心物流拠点として開発
 - 京義線・東海線連結及び大陸鉄道（TRS,TCR）交通網構築
 - 2015 年まで空港・港などを連結する総合物流情報網構築
- IT など先端産業・ビジネスハブ化
 - 北東アジア IT 中心国家実現
 - 北東アジア先端産業基地として内部力量強化
 - 外国人投資を積極的に誘致して多国籍企業の北東アジア拠点化
 - 北東アジア経済協力体形成
 - 観光を戦略産業として育成、アジアの観光中心国に跳躍
- 南北経済交流協力促進及び対外環境造成
 - 経済協力拠点開発及び南北間産業・物流・情報通信軸の形成
 - 4 つの経済協力合意書発効など南北間制度的インフラ拡充
 - 北東アジア平和協力体推進
 - 韓商など分野別在外同胞ネットワーク構築を推進

（以上）

【訳者注】

- 日本での表記に近づけるため、原文の表記中、「北韓」は北朝鮮に、「韓半島」は朝鮮半島に、「韓民族」は朝鮮民族と訳出しました。